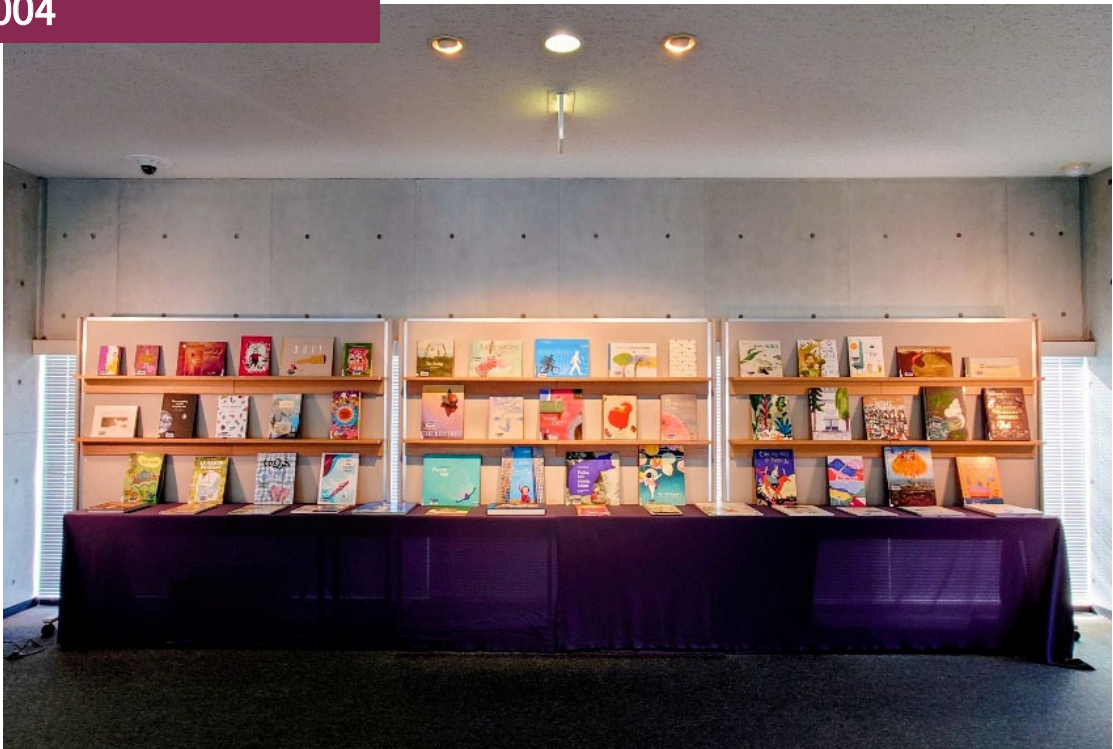




イベント・シンポジウム等実績報告書 配分事業費:345千円

世界のえほん展－希望の扉をひらく－

目的・趣旨	本学は、国内で所蔵数が少ない外国語の絵本やグラフィックノベルなどを所蔵している。しかし、作品の存在は十分に知られていない。展示会開催により、学生や地域の方に所蔵する作品を知ってもらう機会とする。
日時・場所	令和7年12月8日～12月25日 静岡文化芸術大学 図書館・情報センター及びギャラリー
体制	(実施代表者)文化政策学部 文化政策学科 教授 林 左和子 デザイン学部 デザイン学科 教授 かわ こうせい デザイン学部 デザイン学科 教授 ブルバス・ジェローム 図書館・情報センター 井出 直樹 図書館・情報センター 土屋 麻子 図書館・情報センター 堀内 古季
共催・後援等	(後援)静岡県立中央図書館 浜松市 浜松市教育委員会

内容

職員と教員がそれぞれの専門知識を活かし、協力して企画・運営にあたった。開催期間は12月8日～25日(展示3は12月16日～23日)。
展示1「世界の美しい絵本たち」は、本学所蔵のコレクションから厳選した55カ国・97冊の美しい絵本を、展示2「グラフィックノベルで考える国際情勢」は、国際紛争や平和を考えるグラフィックノベル17冊を厳選し、それぞれ解説をつけて展示した。
展示3「各国語の絵本をくらべてみよう」は世界各国の絵本とクリスマス为主题とした絵本131冊を展示、17日には学生によるお話を実施した。
ポスターとチラシのデザインは、デザイン学科3年生(当時)嶋口唯果さん。



結果・成果

アンケートの配布数での集計およびアンケート未配布の学外者39人を加えると、本展の観覧者数は計285人である。なお、本展の図書館での展示は、本学学生や教職員のほか、当館の利用者カードで入館できる学外者も観覧できるが、展示は館内のオープンスペースで実施したため、観覧者のみを集計することはできない。そのため、実際の観覧者数はこれよりも多い(※ 開催期間中の図書館入館者数は、延べ5,413人である)。アンケートの自由記述欄では、「ふだん目にすることがない世界の美しい絵本に触れることができて良かった」「グラフィックノベルに考えさせられた」「クリスマスが各国で結構違うのがおもしろかった」など好意的なコメントが多くみられた。絵本・グラフィックノベルを通して、世界の広い地域への関心をもってもらったと感じている。また本学の絵本・グラフィックノベルコレクションの存在を知ってもらうとともに、今後コレクションをどのように発展させていくかの方向性も見えてきたといえる。

